

【復活のトロパリ 第8調】

めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
恵深主爾高
くだり、みつかのほうむりをうけて、
降三日葬
われらをくるしみよりときたまえり、
我等苦釋給
わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
我生命復活主
えいはなんぢにきす。
榮爾歸

【復活のコンダク 第8調】

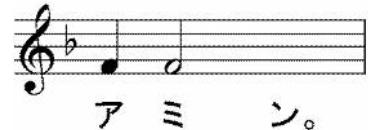
こうえいはちちとことせいしんにきす。
光榮父聖神歸
だいじんじなるしゅよ、なんぢははかよりふく
大仁慈主爾墓復
かつして、しせしもとのをおこし、
活死者興
アダムをふくかつせしめたまえり。エヴァは
復活しめ給
なんぢのふくかつをたのしみ、せかいのは
爾復活樂世界極
てはなんぢがしよりおきたるをいわう。
爾死興祝

【三歌齋經のコンダク 第3調】

いまもいつ もよよに、アミン。
われらつみなるものはぜいりのたんそくをしゅ主
我等罪者税吏歎息
にささげて、しゅさいたるものにつかん。
けだしかれはしゅうじんのすくいをのぞみ、
蓋彼衆人救望
ことごとくのつうかいするものに
悉痛悔
ゆるしをたまう。ち父ちとどうむげんなるかみ
赦賜
にして、われらのためにじんた人體
いをうけ
たればなり。

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息息、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 ねがものちえめいごあたつみおこなものすそのすくいためつうかい
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、われらいやふとうなんぢしょぼくこのときおいなんぢせい
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と

なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 もつわれらのぞわれらおよじゅうじゅうつみゆるわたましいからだ
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
 神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、
司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【聖三祝文】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖神聖毅聖
 じょうせいのものよ、われら等をあわれめ
 常生者我等を憐め
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
 聖神聖毅聖
 なるじょうせいのものよ、われら等をあわれ
 常生者我等を憐め
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
 聖神聖毅聖
 せいなるじょうせいのものよ、われら等をあわ
 聖常生者我等を憐め
 れめよ。こうえいはちちとこことせいしん
 光榮父子と聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
 彩歸今何時世世

せいなるじょうせいのものよ、われら等をあわ
 聖常生者我等憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう聖
 聖毅常生者我等

あわれめよ。

司祭) 黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第8調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主爾等の神に誓を作して償えよ、

しゅなんぢらのかみにちかいなつぐの誓を作して償
 主爾等の神に誓を作して償

えよ。

誦經) 神はイウデヤに知られ、其名はイズライリに大なり、



誦經) しゅなんぢらのかみ
主爾等の神に



【使徒經 296 端 ティモフェイ後書3章10~15節】

司祭) えいち
睿智、

誦經) 聖使徒パウエルがティモフェイに達する後書の讀、

司祭) つつしき
謹みて聽くべし、

誦經) 子ティモフェイよ、爾は我が教訓、品行、意志、信仰、寛容、仁愛、忍耐、我が
アンティオキヤ、イコニヤ、リストラに在りて遇いし所の窘逐、及び苦難に於て、我に從
えり、此の窘逐は我之を忍び、主は我を悉く其中より救えり。凡そ敬虔を以て、

ハリストスイイススに在りて生を度らんと欲する者は、皆窘逐せられん。惡しき人、及び
ひとあざむるもの、ますますあくすすひとまどみづからまどしかなんぢまな
人を欺く者は、益悪に進みて、人を惑わし、自も惑わされん。然れども爾は學
びし所の、及び爾に託せられし所に居れ、爾誰より學びしかを知ればなり。且爾は
いとけなきせいしょしすなわちよなんぢおしなじだれまなしかつなんぢ
幼より聖書を知る、即善く爾に、ハリストスイイススに於ける信に由りて、救を得しむる智慧を與うる者なり。

* * * * *

(比較用 口語訳) あなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいっさいのことから、救い出して下さったのである。いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっています。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに

与えうる書物であることを知っている。

【 アリルイヤ 主日第8調 】

司祭) なんぢ へいあん 爾に平安、

誦經) なんぢ しん 爾の神にも、

司祭) えいち 雅智、

誦經) アリルイヤ、

A musical score for the hymn 'Arikyah'. It consists of two staves of music in G clef, B-flat key signature, and common time. The lyrics are written below the notes. The first staff covers the phrase 'アリルイヤ、アリルイヤ、' and the second staff covers 'アリルイヤ' followed by a period.

アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) きた しゅ うた かみわ すくい かため よ
來りて主に歌い、神我が救の防固に呼ばん、

A musical score for the hymn 'Arikyah'. It consists of two staves of music in G clef, B-flat key signature, and common time. The lyrics are written below the notes. The first staff covers the phrase 'アリルイヤ、アリルイヤ、' and the second staff covers 'アリルイヤ' followed by a period.

アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) さんよう もつ そのかんばせ まえ すす うた もつ かれ よ
讃揚を以て其顔の前に進み、歌を以て彼に呼ばん、

A musical score for the hymn 'Arikyah'. It consists of two staves of music in G clef, B-flat key signature, and common time. The lyrics are written below the notes. The first staff covers the phrase 'アリルイヤ、アリルイヤ、' and the second staff covers 'アリルイヤ' followed by a period.

アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

司祭) (黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し
人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思

ねんめ ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ
念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠

おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ
を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ

ところ おもかおこなぞくしんせいかつすいたたまけだし かみ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神
なんぢわたましいからだこうしょうわれらなんぢなんぢむげんちちしせいしづんよ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善
いのちほどこなんぢしんこうえいけんいまいつよよにして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【エヴァンゲリオン
福音經 ルカ福音書89端 18章10~14節】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聽くべし、主は左の譬を設けて曰えり、二人祈禱せん爲に殿に登れり、一は
ひとりぜいりたおのれうちかいのかみわれなんぢかん
ファリセイ、一は税吏なり。ファリセイ立ちて、己の衷に斯く禱れり、神よ、我爾に感
しやわれたにんざんこくふぎかんいんごとあるいこぜいりごともつ
謝す我他人の残酷、不義、姦淫なる如く、或は此の税吏の如くならざるを以てなり。

われひとなかふたたびものいみおようところじゅうぶんいつさざぜいりとおた
我一七日に、二次齋し、凡そ得る所の十分の一を獻ぐと。税吏は遠く立て、

あえめあてんあおすなわちむねういかみわれざいにんあわれわれなんぢ
敢て目を擧げて天を仰がず、乃膺を拊ちて曰えり、神よ、我罪人を憐めと。我爾
らにつこひとかひとぎいえかえけだしおよみづかたかもの
等に語ぐ、此の人は彼の人よりは義とせられて、家に歸れり。蓋凡そ自ら高くする者は
ひくみづかひくものたか卑くせられ、自ら卑くする者は高くせられん。

(比較用 口語訳) 「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人

であつて、あのパリサイ人ではなかつた。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい
主 光 荣 爾 归
はなんぢにき歸す。
爾 归

※聖体礼儀③（金口イオアン聖体礼儀）～